

「西之表市立住吉小学校」の実践紹介

効果が期待される取組

教職員の意識改革と学校運営の工夫・改善

実施前の課題

- 業務改善に関する意識が低く、効率よく業務を行うことができていなかった。
- 校務分掌を一人で抱えるなど、互いに関わりながら業務を進められていなかった。



実施後の成果

- 業務改善に対しての意識が確実に向上し、見通しをもって業務を行い、子供の活動に関わる時間をより多く確保することができた。
- 校務分掌の工夫を図ることで、複数人で業務を行うなど、チーム住吉としての組織力が、より高まった。

1 教職員の意識改革

業務改善を目指した取組の詳細

- 勤務時間管理の徹底と教職員一人一人の意識改革の推進
 - ア これまでの本校の超過勤務の実態把握・分析と職員への周知
 - イ 業務改善についての共通実践事項の策定
 - (ア) 早くても7時15分を目途に出勤
 - (イ) 定時退庁日（金曜日）、定時退校日（給与支給日）の弾力的な運用及びマイ定時退庁日の設定
 - (ウ) 目標退勤時刻の設定（カエルボードの活用により見える化）
- 学校における業務改善に係るPDCAサイクルの確立
 - ア 職員の話合いによる「1Action」の決定、個々の「1Try」の設定
 - (ア) 職員室掲示と葉の作成
 - イ 本校独自のアンケートによる評価と改善



【「1Action」の掲示】 【カエルボード】



【「1Try」の葉】

重点取組	業務改善に対する意識改革	1 適切な勤務時間の管理ができるようになったか。	6	1
重点取組①	2 定時退庁や定時退校の日は、目標時刻を決めて実践できたか。	6	1	
	3 学校の1Actionを意識し心掛けたか。	7	0	
	4 個人の1Tryを意識し心掛けたか。	7	0	
	5 校務分掌の分担はなされていると思うか。	7	0	
重点取組②	6 チーム学校としての体制は整っていると思うか。（専門スタッフSCやSSW等と連携・分担する体制のこと）	5	2	
	7 かごしま学校応援団の活用はされているか。（本校では地域人材活用）	4	3	
重点	8 授業準備の効率	2	3	

成果 1(2) 2(1)
課題・改善点
2(4) 2(5)

- 学校における業務改善に係る共通認識を図るための取組の展開
 - ア リフレッシュウィーク等、働き方改革について学校便りやホームページで保護者・地域に広報

2 学校運営の工夫・改善

- 教員が担うべき業務の適正化
 - ア 校務分掌の公平分担
 - (ア) 担当学年の固定化を避ける（特に高学年）
 - (イ) 地域担当は、職員間の話合いで決定
 - (ウ) 少年団担当は、二人体制（固定化しない）
- 学校組織や教育活動等の在り方の見直し
 - (ア) 学力向上から複式学習指導の一部解消
 - ⇒・ 6年の国語、社会と4年国語、理科→さくら学級担任が担当
 - ・ 4年の社会、外国語活動と6年理科、外国語(20h)→たんぼぼ学級担任が担当
 - (イ) 行事の実施方法についての検討（毎年 or 隔年実施等）
- 教員の負担軽減を図る取組の実施
 - ア 校務支援ソフト「ミライム」及びホワイトボードの積極的な活用促進（ペーパーレス化）
 - イ 環境の整備
 - (ア) 環境緑化の整備（長期休業中等の職員の業務負担軽減）
 - (イ) 職員室の整備（働きやすい職場作り）
- 授業準備の効率化と時間確保
 - ア 週行事の見直し（週2回の教材研究の確実な確保）
- 外部人材等を生かしたチーム体制による業務の推進（地域人材マップの再編）

1	年	26 h
2	年	27 h
3・4	年	28 h
5・6	年	28 h
さくら		25 h
たんぼぼ		18 h

【各担任の週担当時数】

今後の課題、計画

- 働き方改革の本来の目的である「現在の教師の厳しい勤務実態を踏まえ、教師のこれまでの働き方を見直し、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること」という趣旨を、今後も職員に周知徹底していく必要がある。
- 全職員でよく協議し、学校行事の精選や日課表の見直し、PTA行事の改善等について必要なもの、不必要なものをしっかりと見極め、調和のとれたビルド&スクラップを行っていく必要がある。